＜福島県知事賞＞

豊かな未来へ

棚倉町立棚倉中学校　三年　八巻　天希

延々と続くアスファルトの上を、軽やかに歩く。私たちを照らしていたパトカーの灯りと交差点の赤信号が、私たちの命を守ることを意味しているようだった。妹の手を握り、店を目前にする。買い物かごを手にすると、妹は自分の首から下がるバッグからお金を取り出した。お小遣いと自分の欲しいものを照らし合わせながら、妹は楽しそうに商品を見ている。買いたいものが決まったのか、持ってきた三百円と欲しいお菓子を私に見せ、会計をしてもよいかと私に尋ねた。ところが、そのお菓子は確かに三百円よりも安いが、あることで額が少し超えてしまうのだ。

「そのお菓子は消費税がかかっているから、三百円よりも少し高くなるよ。」そう伝えると妹は顔を歪ませ、目を悲しそうにしぼめた。「消費税がなかったら買えたのにね。」確かにそうだ。税金がなければこのお菓子は買えたのだ。税金があるゆえ、妹は楽しみにしていたお菓子を諦めなければならない。そのせいか、税金があることに心が重苦しくなり、深く気持ちが沈んでしまった。

そもそも税金とは何だろうか。私たちが身近で納めている消費税には、対象品目に「軽減税率」という制度があるそうだ。軽減税率とは、飲食料品や新聞といった生活必需品の課税率を、他の品目に比べて低く定め、消費税負担を軽減することをいう。妹が欲しがっていたお菓子も、軽減税率の対象であり、消費者が八パーセントの消費税を負担する必要がある。

現在は、消費税増税により、軽減税率以外の消費税率の十パーセントを消費者が負担しなければならない。主に年金や医療など、社会保障の財源確保に使われる。増税することで、将来世代に負担を先送りしているのが現状だという。つまり、すべての世代を対象とする安心、安全の実現を目指し、税金は使われるのだ。

現在の交通社会を支える道路をはじめ、私たちがいたるところで目にする信号機や

横断歩道にも税金は使われている。妹と買い物に行くときも、道路があるから安全に歩くことができた。警察官はパトロールをして、私たちを見守ってくれる。信号機があるから事故にあわずに、安心してたどりつくことができた。私たちの豊かな生活環境をつくるためにも、税金は欠かせないものなのだ。

延々と続くアスファルトの上を、踏み固めるように慎重に歩く。私たちを見守るように、信号機やパトカーの赤い光は灯る。そのすべてに、ありがたさを感じられた。再び訪れた店を目前にする。妹は以前のように、喜びを頬に浮かべながら、商品を見ていた。妹は即座にお菓子を持ってきて、満足そうに笑った。それは、前に買うことができなかったお菓子だった。だが私は、前もって多めに三十円を妹に渡しているのだ。このお菓子と、私たちの幸せな未来を手に入れるために。